

平成24年度第1回島根県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1. 日時

平成24年5月10日(木) 13:30～15:30

2. 場所

島根県市町村振興センター 大会議室1

3. 出席者

(委員)

小林委員長、宮脇委員、三島委員、服部委員、渋川委員

(公立大学法人島根県立大学)

藤原事務局長、斎藤事務局次長、宍戸調整監、桐田企画財務課長、福井主任
(事務局)

赤松総務部長、藤間総務部次長、小室総務課長、古満学事文書GL、曳野企画員、
足立主事

4. 議題等

(1) 会議公開・非公開の決定

(2) 委員長選任

(3) 議事

ア) 次期(第2期)中期目標策定スケジュールについて

イ) 次期(第2期)中期目標策定にあたっての論点整理について

5. 会議の概要

(1) 会議公開・非公開の決定

中期目標については、議会で承認されて初めて公表されるべきものであること、また、委員の率直な意見をいただく必要があることから非公開が適当との発言があり、委員に諮られたところ了承された。

(2) 委員長選任

宮脇委員より小林委員の推薦があり、了承された。

(3) 議事

ア) 次期(第2期)中期目標策定スケジュールについて

- ・スケジュール説明の前に、古満GLから資料1により評価委員会の概要の説明が行われた。
- ・資料2により次期(第2期)中期目標等策定スケジュールの説明が行われた。
- ・この説明に対して、委員からの質疑等はなかった。

イ) 次期(第2期)中期目標策定にあたっての論点整理について

- ・小室課長から資料3により、これまでの年度評価結果の説明、資料4により次期(第2期)中期目標等策定にあたっての論点整理の説明が行われた。

<委員からの意見等>

- ・県内就職率がだんだん上がって来ているが、県内就職率が高ければいいというのではなく、離職率も考慮する必要がある。
- ・グローバル人材を育成するには、1か月の海外留学(英語の修得)では短

- い。集中的に行うなら、費用対効果を考慮しフィリピンなら2週間で6万円と安い。韓国なら40万円ほどである。その後に企業に送り込めば非常に効果的である。
- 県立大学の志願倍率は、法人化以来高いままで推移しており、評価できる。県内就職にあまりこだわらずいいところを伸ばしていけばよいのではないかと。
 - 就職には、同窓会データを用いると非常に有効である。
 - 海外には、どれくらいの方が就職しているか。実績があると良い。
→ANAに就職した学生もいる。留学については、学生の半数が韓国、中国、ロシア、アメリカに短期留学している。企業研修にもインドへ10人、韓国へ20人が行っている。
 - ビジネス的にはTOEICで650点くらいの方が成功する。あまり高すぎると偏ってしまっていけない。
 - 北東アジア研究は、最近若干衰退してきているのではないかと。
→現在もNEARセンターでいろいろな研究を行っているが、PRが足りないのではないかと考えている。
 - 島根のその時の状況によって対応がどうなるかわ変わってくると思う。例えば雇用の問題（定年延長）や女性も働かなければやっつけられない。
 - ITと英語の能力を身につけておけば、離職しても使える。
 - できる人をもっと伸ばすような教育をすること。すべての人を高いレベルまで上げようとするのは無駄なこと。人材育成は、適材適所で対応する必要がある。教育に差を付ける（レベルの高い人はレベルの高い教育をし、そうでない人はそれ相応の教育をする）ことも大切。
 - 県立大学は、今までは良かったかもしれないが、これから先は同じことをしていってほしい。
 - 県立大学の県内出身学生やその親は、島根が好きだから県外や海外へ出たいとは思っていない。地方分権だから地方の大学ができることをすればいい。東大と県大の目標はもともと違う。全員を上を上げようとするのはやめた方がいい。